

思想・言論の自由を守り、

政治が教育を統制する動きをストップさせる大きな世論を形成しよう

東京や大阪の公立学校での日の丸・君が代の強制、首長が任命した教育委員による「つくる会」系教科書の採択など、地方自治体の首長の意向によって教育行政が直接的に動かされることが、この数年間で大きく広がりました。最近では、東京都教育委員会による著者の意向を無視した『江戸から東京へ』の内容の改竄、言論の自由を妨害し、子どもの学ぶ権利を侵す実教出版教科書内容への介入など、教育委員会が教育内容をあからさまに統制しようとする事態になっています。実教出版教科書の排除は大阪府・神奈川県などにも広がっています。そして重大なことは、安倍晋三首相が力を入れる「教育改革」は、教育委員会の改革・教員統制・教科書統制などを通して、こうしたことを国レベルの教育政策として推し進めるものであることです。政治が教科書に書かれる内容を細かく規制し、政府の見解が、多数意見というお墨付きで教科書に載せられるなどということ許してはなりません。

時の政治が、都合のいいように教育を権力的に統制することが何をもたらしたか、戦時下の日本社会はその弊害を多くの事実で示してきました。私たちは、この事実が持つ重みを、現在の日本の社会で、多くの若い人々とともに学んでいく必要があります。また、過去の出来事としてだけではなく、たとえば今日の問題で、政府がその情報を統制したり「安全神話」に基づく教育を推し進めることが何をもたらすか、私たちは体験してきました。多くの人が政治的に統制された情報しか伝えられず、学校が事実に基づいて判断する力を育てるのではなく、型にはまった考えを押しつけるところであつたら、その社会に未来を拓く力はありません。

言論・思想の自由は民主主義の土台です。その土台が崩され、言論・思想の統制がいつそう進められていくのか、それを食い止めることができるのか、今、私たちは大きな岐路に立っています。

世論形成に大きな影響を持つメディアは、歴史的な体験を活かさず、逆に今日の深刻な事態の後押しするのではないかとすら思えるような状況にあります。そのもとで、政治が教育内容に介入することに抵抗感がなくなり、それを当然とする風潮が広がっていくとしたら、事態は重大です。私たちは、メディアが歴史をふり返り、戦前の轍を踏まない役割を果たしてほしいと切望するものです。同時に、メディアに期待するだけでなく、私たち自身がそうした取り組みをしていかなければなりません。

言論・思想の自由を守り、政治による教育統制に反対する取り組みは、日の丸・君が代の強制をめぐって、教科書検定や採択をめぐって、博物館展示や碑文など内容をめぐって…と、多くの分野で取り組まれています。しかし、今日進められている東京や大阪・神奈川での動き、そして安倍教育政策のような政治が教育を統制する動きをストップさせるには、いつそう大きな世論の高まりをつくることが不可欠です。

今日の状況に危機感を持ち、世論を高め結集していかなければなりません。一人一人が、また団体が、いまこそ声をあげ、大きな世論をつくる取り組みを進めることを強く呼びかけます。

2013年8月1日

一般社団法人 歴史教育者協議会社員総会／会員集会